

羽黒地域審議会 提言書



平成25年12月16日

はじめに

平成17年の市町村合併から8年余りが経過しました。行政サービスにかかる合併の調整はほぼ完了していますが、旧市町村の地域振興のためにはまだまだ取り組みが必要であり、現在も旧町村ごとに地域活性化事業などが実施されています。

私たち第4次の羽黒地域審議会では、合併後のまちづくりについて「鶴岡市総合計画」や、その「実施計画」と「重要事業」、さらには平成23年度12月の第3次羽黒地域審議会での提言についての「施策反映」や「行政課題」について説明を受け、協議して参りました。

羽黒地域の振興策を構築するには、これまで以上に住民の声を十分に把握しながら地域課題を的確に捉え、市民と地域と行政が協働してまちづくりを進めることが必要と考えます。鶴岡市では総合計画の具体化に向けて、「市民、地域、行政の三つの力の協調・協力を主力エンジンに据えて、持続可能な希望あふれる鶴岡市を市民とともにつくってゆくこと」とされております。

こうした背景を踏まえ、私たち第4次羽黒地域審議会では、羽黒地区の大きな魅力である観光資源に着目し、交流人口の増加による地域振興をねらいとして、前回提言『観光地羽黒の更なるステップアップを目指して』をさらにスケールアップした提言書にまとめました。

今回は、私たち市民も行政とともに取り組む観点から、ファシリテーターの長尾彰氏（文部科学省 政策創造エンジン「熟議カケアイ」民間ファシリテーター）のご助言を頂きながら、行政職員とのグループ討議を重ねてきました。その中で、新たに『市民協働で進める羽黒の観光』をテーマとして6つの項目に施策をまとめ、提言書といたしました。

榎本市長におかれましては、この度の提言内容をぜひご検討され、諸施策との連携、融合を図っていただきますようお願いいたします。さらには地域の意見を取り入れながら、実現に向けた年次計画を作成いただき、責任を持って実行されますようお願い申し上げます。

最後に、この提言書をまとめるに当たり、真摯にご協議賜りました羽黒地域審議会委員の皆様には深く感謝を申し上げますとともに、なお一層鶴岡市民全体が活気に満ち、魅力ある鶴岡市、羽黒地域となりますようご祈念申し上げます。

平成25年12月16日

鶴岡市長 榎本政規 様

羽黒地域審議会会長 金野信勇

目 次

I	提言 「市民協働で進める羽黒の観光」	
	1. 羽黒地域全体で観光に関わっていく方策の検討と実施 現状と課題 課題解決に向けた提言	1
	2. 羽黒地域の資源を活かした観光メニューの整備 現状と課題 課題解決に向けた提言	2
	3. 羽黒地域の資源を活かした観光ルートの整備 現状と課題 課題解決に向けた提言	3
	4. 歴史的建造物や趣ある街並みの保全整備 現状と課題 課題解決に向けた提言	5
	5. 出羽三山観光振興のための道路整備 現状と課題 課題解決に向けた提言	6
	6. 訪れる人にとってわかりやすい案内板の整備 現状と課題 課題解決に向けた提言	7
II	羽黒地域審議会の開催状況	10
III	羽黒地域審議会委員名簿	12

I 提言 「市民協働で進める羽黒の観光」

1. 羽黒地域全体で観光に関わっていく方策の検討と実施

【現状と課題】

羽黒地域の活性化のためには、観光を振興してより多くの観光客を受け入れていく必要があるが、地域全体として観光客へのやさしい案内対応やもてなしの心をより向上させる必要がある。また、観光に関わる関係者においても羽黒の観光を取り巻く厳しい現状について認識を新たにしていく必要があると考えられている。一方、羽黒山には海外からも多くの観光客が訪れておりこうした点に着目し、外国人観光客が増えるような工夫や仕組みも求められている。

観光の振興は、交流人口の拡大につながり、また、様々な分野で地域経済への影響、波及効果が大きい。このため、観光への取組みを観光地だけのことと限定的にとらえるのではなく、地域全体で関わりを持つ意識を高めていくことが課題となっている。

【課題解決に向けた提言】

●羽黒地域全体で観光に関わっていく方策の検討と実施

羽黒地域の活性化にとって観光は非常に大事な資源であり、官と民の協働により、羽黒地域全体で観光に対する高い意識をもつことが必要である。

特に民では観光協会が牽引役となって住民の観光に関する意識を高めるとともに、リーダーとなる人材を育成していく必要がある。

<具体的方策>

- ・市と観光協会が協働して住民の観光に関する意識を高め、リーダーとなる人材を育成すること。
- ・若い人たちを巻き込んで一緒に観光振興に取り組める仕組みを創ること。
- ・地域に愛着と誇りを持てるよう羽黒地域内各小学校の子ども達に羽黒の歴史、文化を知ってもらう仕組みづくりを促すこと。

●より多くの観光客の受入と地域経済を活性化する仕組みの整備と担い手の育成

羽黒山には海外からも多くの観光客が訪れるようになってきていることから、外国人観光客に喜ばれるような工夫や受け入れのための仕組みづくりが必要であり、大使館等に働きかけたり、HPを活用したり、観光業者を通じて羽黒の魅力を広くPRしたりすることが必要である。

<具体的方策>

- ・外国人観光客を呼び込めるよう外国人へのもてなしや語学の研修会など受入の仕組みづくりをすること。
- ・市が観光協会などと協力し、大使館や観光業者への働きかけを通じて羽黒の魅力を広くPRすること。

2. 羽黒地域の資源を活かした観光メニューの整備

【現状と課題】

手向地域には、出羽三山の精神性に惹かれて訪れてくる若者が増えており、こうした精神性と密接に関係する山伏の「修行」や、地元の食材を活かした「精進料理」が新たな観光メニューとして注目を集めている。また、松ヶ岡では鶴岡シルクの発祥の地として「シルク」をキーワードにした体験メニューなど着地型観光に着目した取組みが検討されている。こうした地域の資源を活かした観光メニューは、まだ緒についたばかりであるが、新たな誘客の掘り起こしが期待されている。

また、羽黒地域は夏の観光シーズンに比べ、オフシーズンには観光客が大きく減少することから、通年型、着地型観光として、地域の農業と観光が連携し、農業体験と宿坊を活用した取組みなど、新たな観光メニューを整備しPRしていくことが課題となっている。

【課題解決に向けた提言】

●羽黒地域の資源を活かした観光メニューの整備

精進料理プロジェクトなど民間の活動を積極的にPRし、観光メニューの目玉として育てていくための支援が必要である。また、新たなサービスの創出に向け、民と民の連携についても積極的に結び付けを行う必要がある。

<具体的方策>

- ・出羽三山の精神性を伝える山伏の「修行」をテーマとした観光メニューづくりを進めること。

- ・精進料理プロジェクトなどの民間の活動を支援し、地元にも精進料理の精神性や魅力を積極的にPRして観光メニューの目玉に育てていくこと。
- ・宿坊や地域の商店、農協の青年部など民と民との連携を推進し、新たなサービスが生まれるように支援すること。

● オフシーズンのイベント開催やグリーンツーリズムでの宿泊分離等、年間を通した様々な取組みの実施

冬期間の魅力発信のためのイベント開催や宿坊と農業体験などの連携の取組みを官と民が一緒に組織してやる必要がある。また、高校生の活用や民間で行うイベントをしっかりと支援していくことも重要である。

< 具体的方策 >

- ・羽黒の冬の魅力を発信するイベントの企画、オフシーズンの宿坊の活用、農業体験などのグリーンツーリズムの取組みなどを官民協働で組織して推進すること。
- ・地域に興味を持ってもらい様々な取組みが生まれるようイベントに高校生など若い人達を巻きこんでいくこと。

3. 羽黒地域の資源を活かした観光ルートの整備

【現状と課題】

出羽三山は地域を代表する観光地として長い歴史があり、かつては 100 万人の観光客があった羽黒山は、大きく減少したものの年間 50 万人以上の観光客が訪れ、月山については近年のトレッキングブームにより昨年は 20 万人を越え特に弥陀ヶ原の観光客が増加している。

さらに、出羽商工会の八方十口プロジェクトなどもあって、周辺の市町村からの登山客も増加している状況にある。

また、羽黒山をはじめとするこれらの地域には、新たな観光施設となっている庄内映画村オープンセットや精進料理などの食を提供する宿坊、シルクに関連した体験メニューなどを提供する松ヶ岡開墾場など、羽黒山の歴史的建造物のほかにも地域資源を生かした魅力ある観光メニューが豊富にあるが、これらを半日または 1 日をかけて楽しむコースの設定や観光ルートが整備されていない。

このため、羽黒山の年間観光客 100 万人を目標とし、他の地域とも連携

しながら出羽三山や映画村を訪れる観光客に羽黒地域に滞在する時間を増やす「次の観光コース」を整備し、情報を発信することが課題となっている。

【課題解決に向けた提言】

●羽黒地域の資源を活かした観光ルートの整備

出羽三山魅力発信協議会、松ヶ岡地域振興会議などで住民が地元の観光素材を活かすための話し合いを行っており、これらをつなげるルート開発を進める必要がある。また、公共交通機関を上手く利用してこれらのルートを周れるように体系的にルートを構築し、丁寧な案内を行う必要がある。

<具体的方策>

- ・住民の観光素材を活かすための話し合いが活発に進められるよう支援し、住民と連携して新たなルート開発や周遊の楽しみ方を提案すること。
- ・新たな観光ルートを体系的に構築し、旅行者や観光業者などに積極的にPRしていくこと。
- ・観光客が公共交通機関を上手く活用できるよう、市内の他の観光資源も結んで案内を行うこと。

●南部農道沿道など新たなテーマ別観光ルートの整備と情報発信

通称南部農道（市道河原石野新田線・羽黒南部線）は、松ヶ岡、今井美術収蔵館、玉川寺、手向宿坊街、月山牧場、ハーモニーパーク、月山といった羽黒地域の主要な観光施設に通じており、国道112号線を経由して新潟方面、山形方面からの誘客が期待できる。

そこで、これらの施設の観光資源である歴史や文化、景観などに、松ヶ岡開墾場のシルク関連などの「体験メニュー」や、宿坊の精進料理などの「食」を組み合わせ、半日または1日をかけて楽しむ観光コースを設定するとともに、南部農道の愛称を募集するなど、南部農道沿道を新たな観光ルートとして整備し情報発信していく必要がある。

<具体的方策>

- ・羽黒地域の歴史や文化、景観などに、松ヶ岡開墾場のシルク関連などの「体験メニュー」や、宿坊の精進料理などの「食」を組み合わせ、半日または1日をかけて楽しむ観光コースを設定すること。

- ・羽黒地域の主要な観光施設に通じ、蜂子皇子が羽黒山を開山した時の道程をイメージさせる南部農道の愛称を募集するなど、新たな観光ルートとしてPRすること。

●観光地の連携と周遊ルートの整備

出羽三山や映画村オープンセットを訪れる観光客を羽黒地域全体で取り込んでいくため、各施設が連携して羽黒の観光情報を発信するとともに、鶴岡市全体のスケールメリットを生かし、広域の観光周遊ルートを設定する必要がある。また、地域に住んでいる人達も食、歴史、趣味等をテーマに地元の良さを学び楽しめる観光ルートの整備が必要である。

<具体的方策>

- ・羽黒地域の観光施設が連携して羽黒の観光情報を発信するとともに、鶴岡市全体の観光資源や情報などをテーマ別、シーズン別に盛り込んだ広域のルート整備を推進すること。
- ・子どもを含め地域の人たちが、地元の良さを再発見し、学び楽しめるような食や歴史、趣味等をテーマとした観光ルートの整備を推進すること。

●月山を取り巻く周辺観光の連携

月山を中心とした周遊の観光ルートの整備や、羽黒山を通り庄内町の立谷沢から北月山荘、清川に抜けるルートなど、他自治体と連携した観光ルートやマップづくりを進めていく必要がある。

<具体的方策>

- ・庄内町と連携し、羽黒山を中心に立谷沢、北月山荘、清川などを結ぶ観光案内やルートを整備すること。
- ・月山を取り巻く自治体が協力し、月山の登山情報などを共有し情報発信するとともに、月山の自然や信仰の歴史などをテーマに、月山を中心とした周遊の観光ルートを整備すること。

4. 歴史的建造物や趣ある街並みの保全整備

【現状と課題】

羽黒地域には、手向地区の国宝五重塔など古刹名刹や宿坊街、松ヶ岡地

区の国指定史跡の本陣や大蚕室などがあり、これらは独特の風情や趣から多くの人を惹き付けており、祭礼行事なども含めた施設や環境の維持向上のための整備を長期的かつ計画的に推進していくことが求められている。しかしこうした保全整備は、行政だけの取組みだけでは進めることが難しく、このため、地域を挙げて気運を盛り上げていくことが課題となっている。

【課題解決に向けた提言】

- 歴史的建造物や趣ある街並みなどの観光資源を活用した振興策の検討とその保全整備

歴史的な建造物や趣ある街並みなどを活用・保全していくためには、行政と地域住民が協働して事業への合意を形成していくことが重要である。また、円滑な事業実施のためには十分な財源の確保も必要である。

<具体的方策>

- ・官民協働で宿坊街の歴史的な景観や松ヶ岡等の文化財を守っていく事業を推進するため、合意形成、気運の醸成を図ること。
- ・円滑な事業実施のために十分な財源の確保に努めること。

5. 出羽三山観光振興のための道路整備

【現状と課題】

月山には年間約20万人の観光客が訪れ、特に7月～8月は講中やツアーの登山客を乗せた大型バスが行き交う。しかし、八合目に向かう県道月山公園線は、バス一台がやっと通れる幅員しかない箇所も多く、すれ違いが困難なため、交通渋滞がしばしば見られるなど、円滑で安全な通行が確保されていない。

また、羽黒山頂へ向かう主要地方道鶴岡羽黒線の幅員も狭く、また、勾配がきついことから、特に冬季間は車が通行しにくいなどの課題を抱えており、県が山頂へ向かうバイパスの整備を進めているが、未だ完成に至っていない。

さらに、南部農道は、羽黒地域の主要な観光施設に通じているものの、国道112号線からのアクセスが課題となっている。

今後、月山や羽黒山により多くの観光客を呼び込むためには、これらの道路整備が重要な課題となっている。

【課題解決に向けた提言】

●月山公園線拡幅整備に関する課題の検討・調整、国や県に対する要望活動の強化

県道月山公園線は観光にとって重要な道路であり、行政の担当部署には整備に向けて一層の努力を求める必要がある。官民が協力して進めていくには、観光協会などの民間も積極的な要望活動を行っていく必要がある。

<具体的方策>

- ・ 県道月山公園線の円滑で安全な通行確保を推進すること。
- ・ 出羽三山地区観光開発促進期成同盟会での検討や実態調査などを通じて地域の要望を関係者に訴えること。
- ・ 観光客が安全に通行できるよう観光地へ向かう道路の交通安全対策を講じること。

●羽黒山バイパスの早期完成

羽黒山バイパスの早期完成は、地域にとって重要な課題である。そのため、市や関係住民はもちろん、隣接する庄内町や観光団体等全てが協力してバイパスの早期完成に向け運動を進めていく必要がある。また、こうした活動を広く観光客や地元以外の人などへ広くPRを行っていくことも必要である。

<具体的方策>

- ・ 事業の進捗状況について住民に十分な説明を行い、官民が協働して整備促進期成同盟会を通じて県に対して要望活動を行うこと。
- ・ 早期完成を望む看板も設置して、地元以外の観光客にもバイパスの重要性の周知を図ること。

●国道 112 号線からのアクセス改良

南部農道は、羽黒地域の主要な観光施設に通じており、国道 112 号線に直接接続し南バイパスに繋がることで新潟方面、山形方面からの誘客が期待できることから、南部農道から市道斎藤川原 4 号線を通って国道 112 号線南バイパス T 字路までの延長が必要である。

<具体的方策>

- ・南部農道の先を国道 112 号線に直接接続するため、南バイパス T 字路まで道路の延伸を行うこと。

6. 訪れる人にとってわかりやすい案内板の整備

【現状と課題】

羽黒地域には国道・県道・市道があり、それぞれの道路管理者や観光協会等が案内板を設置している。しかし、これらは設置年度もばらばらなため、目的地表示やそこに至るルート案内の統一性がとれておらず、観光客にわかりにくいものが見受けられ、観光客が目的地に着けないなど案内の不備も指摘されている。また、外国人観光客に配慮した内容にしていくことも必要である

このため、観光客をスムーズに目的地へ案内し、より多くの観光客に訪れてもらえるように案内看板等の誘導サインの整備が課題となっている。

また、国道 112 号線から羽黒の良いところがすべて揃っている南部農道方面に繋がる交差点に、羽黒や松ヶ岡へ誘導する看板の設置が求められる。

【課題解決に向けた提言】

●訪れる人にとってわかりやすい案内板の整備

羽黒地域全体に観光資源が点在しており、車のナビが対応していなかったり、道路も複雑でわかり難くかったりする状況から、表示や案内ルートを統一し、観光客にわかり易い観光案内板を設置していく必要がある。

また、目的地に行きやすい道路の整備に併せ、国道 112 号線から鶴羽橋・南部農道へ向かう交差点には、羽黒山や松ヶ岡へ誘導する看板の設置が必要である。

<具体的方策>

- ・案内看板等の設置計画の検討にガイド協会、宿坊組合などを加え、民間の力を活用し表示やルート案内を統一するなど観光客にとってわかり易い看板の設置に努めること。
- ・案内看板等の設置については外国人観光客に向けた内容に配慮すること。
- ・国道 112 号線から鶴羽橋・南部農道へ向かう交差点に、羽黒山や松ヶ岡へ誘導する看板を設置すること。



〈グループ討議の様子〉

II 羽黒地域審議会の開催状況

平成24年度

回数	開催日	内 容
第1回	5月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度予算及び主な事業の概要について ・地域審議会の提言について (提言内容を踏まえた今後の進め方について)
第2回	8月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・学校適正配置について ・地域審議会協議テーマ等について
第3回	11月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・鶴岡市総合計画実施計画の策定について ・鶴岡市地域コミュニティ基本方針の策定について ・羽黒地域審議会提言書への対応について ・講 演 講師 長尾 彰氏 (文部科学省熟議カアイ民間ファシリテーター) 演題 「市民協働のまちづくりについて」
第4回	2月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・羽黒庁舎建設について ・羽黒地域提言書について (グループワーク) 協議テーマ「市民協働で進める羽黒の観光」について ①これからの羽黒地域について ②前回提言書の重要度、緊急度のマッピングについて

平成25年度

回数	開催日	内 容
第1回	5月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度予算の概要及び主な事業の概要 ・地域振興計画の策定について ・羽黒庁舎建設基本構想について ・羽黒地域審議会提言書 具体的な解決策・施策の進行状況について ・羽黒地域提言書について (グループワーク) 協議テーマ「市民協働で進める羽黒の観光」について ①マッピングを元にした優先順位の絞り込み ②課題の特定 (なぜ今まで出来なかったのか阻害要因の追求)
第2回	8月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・広域コミュニティ組織と地域活動センター (仮称) について

		<ul style="list-style-type: none"> ・住民自治組織総合交付金制度について ・鶴岡市歴史的風致維持向上計画の進捗状況について ・国宝羽黒山五重塔ライトアップによる夜間参拝について ・7月集中豪雨による被害状況について ・主要地方道鶴岡羽黒線整備促進期成同盟会の設立について ・地域づくり懇談会の職員地区担当制度による会の運営について ・羽黒庁舎建設基本計画の策定状況について ・羽黒地域審議会提言書の作成の流れについて
第3回	11月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回、2回地域審議会における質問、指摘事項等について ・羽黒地域提言書について（グループワーク） 協議テーマ「市民協働で進める羽黒の観光」について ①項目の整理と提言書への反映 ②具体的方策の協議の進め方
第4回	11月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・鶴岡市総合計画後期基本計画の素案について ○羽黒地域振興計画の概要について ・協議テーマ「市民協働で進める羽黒の観光」に係る提言書(案)について ・第1回、2回地域審議会における質問、指摘事項等について

Ⅲ 羽黒地域審議会委員名簿

任期：平成24年7月1日～平成26年6月30日

役職	所属団体・役職名等	氏名	備考
会長	学校法人羽黒学園 顧問	金野 信勇	
副会長	羽黒区長会 会長	山本 興治	H25. 5.30～
委員	鶴岡市老人クラブ連合会羽黒支部支部長	岡部彌一郎	
委員	羽黒体育協会 会長	勝木 正人	H25. 5.30～
委員	羽黒地区民生児童委員協議会 会長	高田 志郎	H22.12. 1～
委員	松ヶ岡開墾場 理事長	山田 鉄哉	
委員	羽黒町観光協会 会長	星野 博	
委員	出羽商工会羽黒支所 代表理事	山田 勝実	
委員	手向地区公民館 館長	田村 廣実	H25. 5.30～
委員	JA 庄内たがわ 理事	山口 平	
委員	羽黒町婦人会 会長	小南 孝子	H23. 5.24～
委員	出羽三山神社 禰宜	阿部 良一	
委員	鶴岡市消防団羽黒方面隊 隊長	富樫 篤	
委員	NPO法人蜂鼓山社中 事務局長	早坂 一広	H25. 5.30～
委員	正善院 住職	島津 慈道	
委員	農業	庄司 晴一	公募
委員	社会福祉法人羽黒百寿会	鈴木 史子	公募
委員	旅館「多聞館」	土岐 由紀	公募
委員	農業	加藤 欣也	公募

前委員

	所属団体・役職名等	氏名	備考
	羽黒区長会 会長	佐藤 進	H25. 5.29 退任
	羽黒町観光協会 副会長	斎藤 一	H25. 5.29 退任
	羽黒体育協会 会長	太谷 眞一	H25. 5.29 退任
	広瀬地区公民館長	齋藤 良幸	H25. 5.29 退任
	農業	本間 信一	H25. 8.28 辞任